令和８年度　古川黎明中学校・高等学校進路情報

黎明キャリア通信　No. ４

令和８年７月２４日発行

本校HPはこちらから

宮城県古川黎明中学校・高等学校
進路指導部　　文責　山田　直人

高３は受験の天王山へ！夏休みのガンバリに期待

●天王山について

　天王山は京都府大山崎町にある山。その昔、本能寺で主君織田信長を討った明智光秀を、同じく信長の家臣だった羽柴秀吉が破った「山崎の戦い」の舞台で有名です。『この山を制した方が天下を取る』とも言われました（実際には山崎の戦いでは天王山の争奪戦は発生してないようですが）。この戦いに勝利した秀吉は、信長の天下統一事業を継承して、のちに「豊臣秀吉」となり天下人となりました。

　いよいよ夏休み。球技大会と黎明祭が終わり、三大行事も残すところ体育祭のみとなりました。この夏は高３の進路を左右する「運命の分かれ目＝天王山」となる期間です。全国の受験生はみんな夏休みに頑張ろうと考えています。「１日２４時間」は万人に与えられた平等な時間です。全国から取り残されないように、先頭を切って走れるように、しっかりと計画を練り、その計画通り学習をやりきってくれることを期待しています。ぜひ、１日１日を大切に過ごしてください。『この夏を制した者が進路を達成する』ことを肝に銘じてください。就職・公務員のみなさんはもうすぐ勝負です！頑張ってください!!高校１・２年生や中学生も進路決定や将来を見据えて、充実した夏にしてください。

●夏期課外講習について

　高校１・２年生について、７月２７日（月）から３１日（金）の午前に夏期課外講習を実施します。模擬試験や進路決定を見据えて、大いに活用いただきたいと思います。課外は受講するだけでは成績は伸びません。その学習を自分のものにするための復習が大切です。学習で重要なのは、時間よりも回数。何度も何度も回数をこなしながら、自分のものになるよう努力をするのです。その努力をしなければ「課外を受けているのに成績が上がらない」「塾に行っているけど伸びない」ということになってしまいます。ではなぜ、繰り返す回数が大事か。それは、この反復が自分自身との対話になるからです。どうしてうまくいかないのか、どこで失敗したのか、そんなことを自分と対話し、探究する時間が必要なのです。課外を受ければ成績が伸びる、塾に行けば成績が伸びるという発想は正しくないですよね。課外を受ける、塾に行く、そこで学習した分を復習する時間をもたなければならないのです。

【本校教員によるＲ８共テ分析② 国語・化学基礎・化学・物理基礎・物理 編】

★国語

共通テストの問題はToshin.comからの閲覧が便利です➡

分析・講評				
大問１	大問２	大問３	大問４	大問５
【総評】素材文は美術評論。約４３００字。昨年同様、単独の文章を用いた出題。漢字の問１以外は傍線部の内容説明や理由説明で、文章内容そのものを的確に読み取る力を問うオーソドクスな設問である。選択肢は４つで選びやすい。【特徴ある問い】問４では傍線部のように述べる筆者の意図が問われていて、あまり見ないものである。【出典】櫻井あすみ「『贈与』としての美術・ABR」	【総評】素材文は小説。問６のノート内の引用文を含め単独の文章である。分量的には昨年と同じ程度。昨年と同じく語句の意味を問う設問はない。現在と過去が交錯するやや複雑な構造の素材だが、正誤判定はつきやすい。問５の表現を問う問題以外は人物の心情・心境を問うものだった。【特徴ある問い】特になし。【出典】遠藤周作「影に対して」	【総評】参照資料はグラフがなくなり文章や図のみ。昨年度がグラフ等の読み取りを中心として「情報処理の力」を問うたのに対して、今回は「情報をどう表現するか」をめぐる問いが中心であった。問３（ⅱ）は出題意図が読みにくく解答に苦労させられたであろう。【特徴ある問い】データの読み取りだけではない、情報の表現力を問うものは予想外で、次年度以降、傾向が読めないかもしれない。【出典】山形昌也氏へのインタビュー記事「科学絵本のアプローチ」、大片忠明「イワシ　むれで　いきる　さかな」、東京水産振興会「世界はイワシでできている？」	【総評】昨年とほぼ同じ程度の文章量。複数の出典の組み合わせではなく、引用資料も含めて単独の文章からの出題であった。文章自体は昨年度と比して読みやすいが、問４・５は選択肢と文章量が増えやや難しかった。例年あった和歌は本文になく、設問にもない。昨年はなかった語句と内容に関する設問は問２で復活したが、生徒と教師の話し合い場面はなくなった。内容説明が大半で、標準的なレベルであった。【特徴ある問い】特になし。【出典】「うつほ物語」	【総評】日本漢文。文章量は昨年並み。引用文も含めて単独の文章。極端な難問はなく標準的。否定形や使役形・詠嘆形などの基本的句形を抑えつつ段落ごとの趣旨を読み取る力が必要である。【特徴ある問い】特になし。【出典】長野豊山「松陰快談」

今後（次年度）に向けての対策	本校生徒へのメッセージ
大問１・２・３（論理的な文章・文学的な文章・図表資料）従来の本文の理解だけに留まらず、要旨の適切な把握と複数の文章と比較・検討する力が求められている。そのため、授業・課外等でも論旨の把握のための要約練習や教材と関連した資料・別の文章を活用した発問等をして、複合的に文章や図を読み解く力を高める必要がある。また、定期考査も授業で扱った単純な内容のみを出題せず、共通テストの傾向に合わせ、本文と関連する初見の文章や筆者の解説などを用いた作問を行う。日頃から、多様なジャンルを超えて多様な種類の文章に触れ、生徒の深い読解力・思考力・多角的に比較・検討する国語力を養っていく必要がある。 大問４（古文）まずは基本単語、助動詞や敬語、和歌の修辞などの基本事項は高校2年生で完成させておくことが重要である。その上でたくさんの文章を演習的にこなしていく必要がある。出題形式や内容がこれからも改編されていく余地が多分にあることから、早め早めの準備をしていくことを目標にして欲しい。 大問5（漢文）古文同様、基本句形、重要語、漢詩の修辞を柱に繰り返し学習して遅くとも2年生の冬までのは完成させたい。古文と比べて覚える事項が少ないので十分可能である。上にも書いたが、今後は現古漢や文学ジャンルを超えて読む力、さらには倫理・世界史・日本史などの教科横断型の力（ひっくるめて「教養」）が益々大事になってくると思われる。今後新傾向の問題が多くなっていくことも考えられるが、思考のベースは変わるものではない。「読む・書く・話す」の国語における当たり前の経験を今後も継続しながら、じっくりと基礎固めをしていきたい。	『文章を読むことに慣れること』『さまざまなジャンルの書物に触れる機会を増やすこと』『文章に読み浸る、向き合うに足る精神的余裕と集中力を持つこと』近年の共通テストの傾向としては、ただ一つの文章について読解できるだけでなく、複数の文章を読み比べてその相違点を検証していく、そこから統合して読み取れることや予想されることを発見していく、といった応用的な力が必要とされています。しかしこの力は一朝一夕で身につくものではなく、付け焼き刃の対策でどうにかなるものでもありません。文章を読む力は、じっくりと長い時間をかけて丁寧に積み重ねることで少しずつ定着していくものです。その分、効果が目に見えて表れるのにも時間を要します。しかし、諦めずに最後まで丁寧に取り組めたかどうかが、未来の君たちの読解力に差を生みます。日々自発的にさまざまな文章を読み、そこから読み取れた内容や自身の考えをしっかり文章化できるようにしましょう。また、国語は言語である分、ある結果や答えにたどり着くまでの過程も、より重要視すべきです。国語は教科の特性上、全く同じ問題は二度と出題されません。しかし、答えにたどり着くまでの考え方、読み方は基本的に同じです。採点や振り返り、復習の際は「自分がどう本文を読み取ってどう考え、どう答えを組み立てたのか」「模範解答としてはどの筋道で考え組み立てていくべきだったのか」という過程の部分を徹底的に学ぶ意識をつけてください。 古典については、左記にもある通り文法の基本事項をいかに早く習得するかが鍵になります。古文や漢文に限らず、英語でもフランス語でも中国語でも、言語を読解するためにはまずその言語の語句の知識や文法の知識が身についていなければ読むことが出来ません。まずは授業で習ったことを徹底的に復習して定着させること、手持ちの副教材やテキストをすみずみまで活用することで早め早めの文法マスターを目指しましょう。

★化学基礎

分析・講評		今後（次年度）に向けての対策	本校生徒へのメッセージ
大問１	大問２		
昨年同様，第１問は化学基礎の全範囲から小問集合の形式で基礎的な知識や理解を中心に問われた。第２問は肥料を題材とする総合問題であり，基礎的な内容が多角的に問われたことに加えて，計算問題では問題文やグラフを読み取り，解答を導く思考力が問われた。 引用：河合塾　2026大学入学共通テスト　分析		問題集のAレベルから発展例題レベルの問題を何も見ずに解説する学習をしておくとよいでしょう。	基礎基本の徹底が大切です。難問奇問に時間を費やすのではなく，着実に抜け・漏れをなくしていくようにしましょう。 計算力も大切です。闇雲に計算するのではなく，約分できるものは約分をする，頻出する数値の計算結果は覚える，必要に応じて概算をするなど，効率よく計算するかを考えながら計算するとよいでしょう。

★化学

分析・講評					今後（次年度）に向けての対策	本校生徒へのメッセージ
大問１	大問２	大問３	大問４	大問５		
第1問は物質の構成・物質の状態、第2問は物質の変化で、いずれも理論分野からの出題であった。第3問は無機物質・物質の変化、第4問は有機化合物からの出題であった。第5問は身のまわりの化学物質に関する総合問題で、無機物質、合成高分子、エステルに関する内容であった。「アルコールロケット」を扱った実験問題、イミド結合の形成やポリイミドの原料を考える問題など、目新しい題材の出題も見られたが、昨年に比べると、教科書の内容に即した問題が多くなり、日頃の学習の成果が得点に反映されやすい構成であった。 引用：河合塾　2026大学入学共通テスト　分析					問題集のAレベルから発展例題レベルの問題を何も見ずに解説する学習をしておくとよいでしょう。	基礎基本の徹底が大切です。難問奇問に時間を費やすのではなく，着実に抜け・漏れをなくしていくようにしましょう。 計算力も大切です。闇雲に計算するのではなく，約分できるものは約分をする，頻出する数値の計算結果は覚える，必要に応じて概算をするなど，効率よく計算するかを考えながら計算するとよいでしょう。

★物理基礎

分析・講評			今後（次年度）に向けての対策	本校生徒へのメッセージ
大問１	大問２	大問３		
問１：密度と浮力の関係。 問２：抵抗が長さ断面積との関係，抵抗率の単位を答える。 問3：放射線のベクレルシーベルトの違い。詳しくなくても放射性崩壊を理解していれば解ける。 問４：波の速さと波長，周期（振動数）の関係が分かれば解ける。	等間隔に並べた磁石の前を通る台車に，センサーを載せて，地場の強さと時間のグラフを読み取る。 問１：速さと地場の変化をグラフから読み取る。 問2：等速直線運動をグラフから選ぶ。 問3：等加速度運動をグラフから選ぶ。問4：v-tグラフから加速度を求める。グラフの傾きを求めれば良い。	A　比熱 問１：比熱の代償と暖まりやすさ蒸発熱と温度変化に関する基本的な問題。 問２：状態変化と比熱熱量の関係。容器と水の間の熱のやりとりを考えれば良い。 B　電流に関する実験に関する問題 問3：オームの法則で解ける。問４：電力とジュール熱の関係。問５：比熱熱容量の関係から，本測定と予備測定の比を求める。	易化した。測定する実験のグラフや値を用いる問題が２問くらい出ているが，落ち着いて解けばそれほどでもない。できれば物理を選択していればおつりが来る。	受験者が少ないが，物理基礎を使うのであれば，物理を選択しておくべき。物理の授業を理解していれば，余裕を持って解けると思う。

★物理

分析・講評		
大問１	大問２	大問３
①小問集合　25点 ５問中教科書的な問題は２問のみ，３問はひねってあるので焦るかも。 問１は音の速さとドップラー効果による振動数，普通にとける。問２：直流と交流の直列回路の組み合わせ。直列回路で「ランプが最も明るくつく」→「ランプに加わる電圧が最大」→「ランプ以外の電位差が最小」に気づけばOK。問題の形式がひねってあるので迷うと思う。それに気づくかどうかはRLC回路について根本的な理解が必要。問３：慣性力の問題。カーブを一定の速さで進む→等速円運動なのでバスには内向きの向心力がはたらいている。風船には外向きの慣性力（遠心力）がはたらくのでカメラから見て右向き。横にあったカメラが，後半は後ろに場所が変わったり，回りくどく設定が雑。こういう問題は飛ばして，後からやって良いと思う。 問４：コンプトン効果（X線光子と電子の衝突）における運動量保存の教科書的な問題。光子の運動量h/λが分かれば大丈夫。問５：単原子理想気体の内部エネルギー，分子の運動エネルギー，「二乗平均速度と物質量の積」に関する３択問題。運動エネルギーは温度Tに比例，突然出て来る「二乗平均速度と物質量の積」が厄介。ボルツマン定数含む二乗平均速度の式から考えなければならないので結構複雑。	②衝突や相対運動　25点 問1：反発係数eを用いて衝突前後の速さから力学的エネルギーの変化を求める。問2：弾性衝突e＝1として，相対速度と，運動量保存則から考える。 問3：アは，Aに対する全体（B1＋B1）の相対速度から，反発係数を求める。問２のvとVの式から反発係数eが1より小さいことを導く。 問4：衝突後のB1とB全体の運動量保存と，B1の速度から運動エネルギーを求める。ばねののびが最大（最小）のとき，B1とB2の速度は同じVになる事に気づいて，力学的エネルギーの保存から，弾性エネルギーを用いる。	③AB分割問題　25点 A単原子理想気体の状態変化 問1：定圧変化の仕事Wと内部エネルギーの変化ΔUと熱力学第一法則から吸収熱を求める。問２：気体のする仕事はp-V図の面積から求める。問３：ABで吸収した熱，１サイクルでした仕事，BCAで吸収する熱を表す。熱力学第一法則，内部エネルギーの変化から考える。 B波の重ね合わせ（干渉） 問４：強めあいの条件は，経路差が半波長，三平方の定理で求める。問５：x軸上は定在波，Lまでの中点は腹（強めあい）であること，腹～腹は半波長（0.2～10.8λが突然出てくるのが謎）。問５：球面波の進行方向と，平面波の進行方向を考えて強めあいの点の移動先を求めればよい。

分析・講評	今後（次年度）に向けての対策	本校生徒へのメッセージ
大問４		
④荷電粒子にはたらく力 問１：電源の電圧は装置1の極板間の電圧と同じ（抵抗があっても電流が0なので電圧降下は起きていない），－の荷電粒子が受ける力と逆が電場の向き。問2：静電気力（保存力）のみ仕事（力学的エネルギーの変化0）。問3：運動方程式から静電気力による加速度を求め，荷電粒子が飛び出すまでのΔtと等加速度運度の式から電場Eを求める。問4：円運動の向心力の向き，フレミングの左手から磁場の向きを求める。問5：飛び出す位置までの距離は半径rの２倍。円運動の半径rを運動方程式からｍ ｒ を用いて表す。問3の式よりv_0 ，ｍでｒ ，ｒ′の比を求める。	昨年度まで毎回出題されていた実験を題材とする大問は出題されなかった。 難しい問題に対しては類似の例を挙げてヒントが与えられており、正答しやすいように配慮されてはいた。 難しい現象を題材としているが、もともとの解答選択肢の数が少ないことに加えて、明らかに誤った選択肢を消去することで救われる可能性も高い。問題によっては問題文をほとんど読まなくても解答できるような作りになっている。 とても回りくどい問題がおおかった。 分量は例年に比べればやや少ないが、問題によっては時間がかかるものもあり、時間配分に気をつけながら解き進める必要があった。	物理の問題が大幅に難化し，全国的に平均点は理科４科目中最低になりました。大学入学共通テストのほとんどの問題は基本的な内容がきちんと理解できているかどうかを問うと言いつつ，言い回しが回りくどかったり，短時間に多くの情報を読み解いていく力が必要になりつつあります。 とはいえ，まずは，基礎・基本的な考え方を理解することです。半分くらいは単純な設問で教科書的な内容が問われています。 その際，公式の暗記ではなく，その式がなぜ成り立つのかを理解することが求められます。公式の成立する理由や，その過程を問う問題が出されているからです。 さらに，高得点を狙う人は，難易度の高い複雑な問題が，前後の問題が伏線になっているところに注意が必要です。落ち着いて，取り組むことが重要になってくると思います。 ※ 今回，本講の受験生42名の中に対策をほとんどせず（課外もとらず），かつ，大学の受験科目にないにもかかわらず「もったいないから」という理由で受験した生徒がいたようです。あくまで料金を支払っている個人の判断ですが，全受験生徒の結果は集計され，過去と比較したり，次年度の授業計画や対策を立てる材料になります。受験せずとも，問題は公開されますので，できれば控えてもうか，受験する場合はしっかり対策を行った上で挑戦してもらえればと思います。

各大学の最新の入試情報は『河合塾 Kei-Net』での確認が便利です。右の二次元コードよりご覧頂けます。大学ごとに入試の種類も多岐にわたります。小まめな確認をお願いします。